

神経・脳外

Neurology/Neurosurgery

ユニット責任者：脳神経外科学 教授 田中 雄一郎

ブロック名		期間	ブロック責任者
第1ブロック	神経・脳外①	5月7日 ~ 5月10日	秋山 久尚
第2ブロック	神経・脳外②	10月7日 ~ 10月10日	柳澤 俊之

1. ユニット概要・学習内容

中枢神経系は人類で高度に発達し、ヒトを他の動物から区別する最も重要な要素といえます。神経系を理解せずにヒトを理解することはできないと言っても過言ではありません。

第1ブロックでは、大脳・脳幹・小脳の構造と機能、神経系の機能発達、大脳基底核、連合野と運動の調節、学習、記憶、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、Parkinson病、運動ニューロン疾患などに関して学習して頂きます。主に神経系の基礎科学、解剖、生理、変性疾患に関する学習内容としました。

第2ブロックでは、失語・失行・失認・高次脳機能障害、脳神経・大脳基底核・視床・視床下部・運動神経・脊髄の構造・機能・病態、神経学的診察法・検査、脳脊髄血管障害などについて学んで頂きます。主に神経系の解剖、機能、診察、検査、血管障害に関する学習内容としました。

2. 到達目標

- 1) 神経系の機能発達・神経回路・運動調節・学習・記憶の説明ができる。
- 2) 大脳・脳幹・小脳・脳神経・脊髄の構造・機能・病態の説明ができる。
- 3) 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、Parkinson病、運動ニューロン疾患など変性疾患の説明ができる。
- 4) 脳血管障害や脊髄血管障害の診断・検査・治療を説明できる。

3. 学習上の注意点

神経細胞の機能に関する基本を予習しておく。
神経伝達物質の基本に関する予習をしておく。
教科書や参考書の該当箇所を一読しておく。

4. 教科書・参考書

教科書

『内科学』（朝倉書店）

『ベッドサイドの神経の診かた』（南山堂）

参考書

『カールソン 神経科学テキスト脳と行動』（丸善）

（書評）面白く、よくまとまっている。教科書として神経科学にむいているので授業までに十分読み込んでおいて欲しい。神経科学を全体として眺めるのに良い。しかし、大脳基底核とか小脳といった各論には向いていない。

『ニューロンから脳へー神経生物学入門』（廣川書店）

（書評）よくまとまっているので、医学生のレベルを多少超えているが読むことをお勧めします。神経系の全体を見渡すのに大変優れた本。ただ大脳基底核とか視床下部といった項目はなく、あくまでも総論的内容です。本書とカールソンを読めば完璧です。

『ニューロンの生理学』（京都大学学術出版会）

（書評）詳しく、学生レベルを超えている。しかしその分、機序を詳しく説明している良書です。辞書代わり。

『カンデル神経科学』（メディカル・サイエンス）

（書評）医学生のレベルを遥かに超えているが、厚く読み応えのある本。比較的新しい出版。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	2	90 (%)	
授業態度等		10 (%)	

当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
脳神経外科	教授	田中雄一郎	月曜 17～19時	東館2階・脳神経外科医局	tanaka
内科学 (脳神経内科)	准教授	秋山 久尚	月曜 15～17時	医学部1階・脳神経内科医局	h2akiyama
内科学 (脳神経内科)	講師	柳澤 俊之	金曜 10～12時	医学部1階・脳神経内科医局	s2yanagi
生理学	教授	船橋 利也	12:30～13:30	医学部4階・生理学講座	t4-funabashi

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp を省略